

TX土浦延伸案の是非について
H. R.<国③ゼミ>

1. はじめに

茨城県(2018)によると、平成29年の茨城県内における各市町村別人口増減率上位3位は、つくば市、つくばみらい市、守谷市である(表1)。それらの共通点としてあげられるのはつくばエクスプレス(以下、TX)の沿線都市であるということである。TXは、2005年に開通して以降、東京の秋葉原とつくばを結ぶ重要な路線として、多くの人に利用されてきた。TX沿線に住む利用者の中にはTXの沿線から離れた都市から移住してきた者も少なくない。このように、TXは人口推移の視点から沿線都市に大きな影響を及ぼすことがわかる。

表1 茨城県内の市町村人口の変化の度合い

順位	上位10市町村	
	市町村名	人口増減率(%)
1	つくば市	1.40
2	つくばみらい市	1.24
3	守谷市	1.02
4	神栖市	0.44
5	牛久市	0.27
6	東海村	0.11
7	古河市	0.05
8	阿見町	0.04
9	水戸市	0.00
10	ひたちなか市	△ 0.01

(茨城県,2018)

2023年6月に茨城県はTXの土浦延伸案を決定した。そこで、本研究では、鉄道敷設による人口推移に着目し、TXの土浦延伸が周辺の自治体にどのような影響を及ぼすかを調べ、それをもとにTXの土浦延伸案の是非について考察する。

2. 仮説と調査方法

総務省統計局(2022年)、厚生労働省(2022)によると、令和4年の土浦市の人口、市町村内総生産額(名目)はTXの沿線都市であるつくばみらい市や守谷市よりも高い水準にあり(図1、2)、都市の発展の度合いはつくばみらい市や守谷市よりもつくば市に近いと言える。

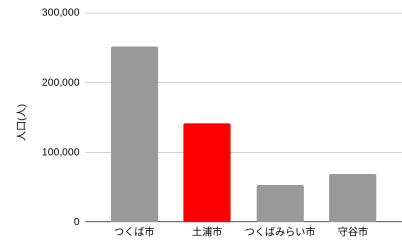


図1 TXの通っている都市及び土浦市の人口
(総務省統計局,2022より、筆者作成)

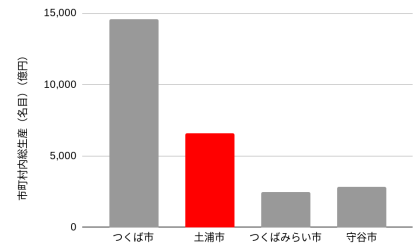


図2 TXの通っている都市及び土浦市の市内総生産額(名目)
(茨城県,2022より、筆者作成)

そして、「つくば市よりも地価の安い土浦市にTXが延伸されれば、これからつくば市に移住しようと思っている人が土浦市に移住する。そのため、他の市町村からの転入が人口増加の主な要因になっているつくば市の人口が減り、それにともなって多くの弊害が生まれるのではないか」という仮説を立てた。この仮説の検証のために、TXの通っている3都市及び土浦市の地価と転入者数の相関の有無を検討した後、財政状況を調べる。

3. 調査結果及び考察

図3、4からわかるように、そもそも都市の地価と転入者数に強い相関があるとは言えず、今後ともつくば市の転入者及び人口は地価によって変化しない。ゆえに、つくば市と土浦市の地価の差による影響は生まれないと考えられる。よって、「つくば市よりも地価の安い土浦市にTXが延伸されれば、これからつくば市に移住しようと思っている人が土浦市に移住する。そのため、他の市町村からの転入が人口増加の主な要因になっているつくばにおいて、人口が減り、それにともなって多くの弊害が生まれるのではないか」という仮説は立証されない。

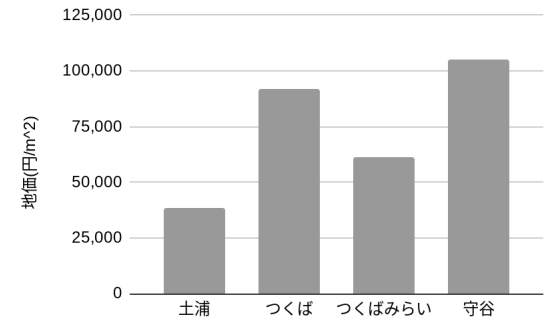


図3 TXの通っている都市及び土浦市の地価
(土地代データ, 2024より、筆者作成)

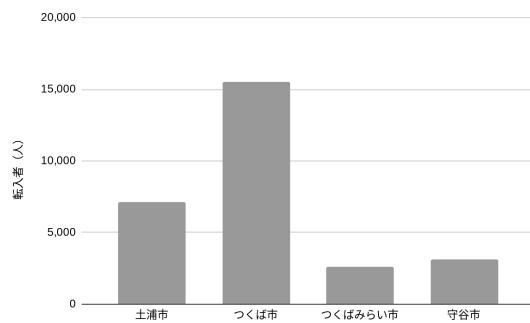


図4 TXの通っている都市及び土浦市の転入者数(総務省統計局, 2021より、筆者作成)

またTXの通っている地域と通っていない地域に分けて人口に関する特徴を調べた。

総務省統計局(2022)によると、つくばみらい市と守谷市はともにTXが通っている地域であるが、これらの2地域は、つくば市への人口増加寄与率が比較的高く(守谷市:58人(3位)、つくばみらい市:64人(2位))、人口増減率が0を上回っていて高い水準にあることがわかる(守谷市:4.84(1位)、つくばみらい市:2.77(2位))(図5)。

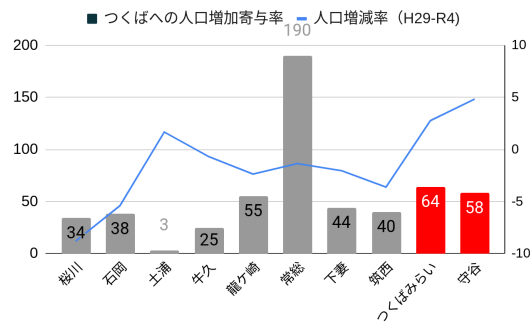


図5 つくば隣接地域及び守谷市におけるつくばへ移住して人の数と人口変化の度合い(総務省統計局, 2021より、筆者作成)

計算方法:

(つくばへの人口増加寄与率)

$$= \frac{(2020\text{年のつくばへの転出数}) - (2020\text{年のつくばからの転入数})}{(2020\text{年のつくばの人口})} \times 100$$

(人口増減率)

$$= \frac{[(\text{令和4年の人口}) - (\text{平成29年の人口})]}{(\text{平成29年の人口})} \times 100$$

ゆえに、TXが通っている地域からは、多くの人がつくばに移住するが、その地域の人口は直近5年において増加傾向にあるということがわかる。

ここで、厚生労働省(2022)によると、令和2年のつくばみらい市と守谷市の人口増加の主な要因が社会増加数であることを考慮に入れると(図6)、TX沿線都市であるつくばみらい市と守谷市は隣接するTXの通っていない地域からつくば市に移住した人口を超える人口を吸収することで、結果的に人口が増加しているということが考えられる。

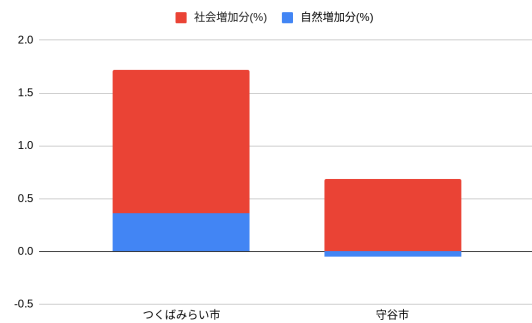


図6 自然的な出生に関する人口増加と社会的な転入に関する人口増加の度合い(厚生労働省, 2022より、筆者作成)

市町村の市民税や固定資産税といった人口によって左右される税金は、つくば市をはじめ、市税総額の大半を占めるため、人口の格差は自治体の経済格差につながる。よって、TXが通っている地域とそうでない地域で人口の格差が生まれると、TXが通っていない地域において扶助やインフラの整備に充てるための税収が不足する。それによって、現在、TXが通っていない地域で衰退が起こっている可能性がある。

そして、つくば市に隣接し、人口の規模もつくばみらい市や守谷市より大きい土浦市への延伸が実現されることにより、この現象はより大きなものになり、TXの通っていない多くの自治体のさらなる衰退がもたらされてしまうと考えられる。

本研究ではTXが通っている地域とそうでない地域の間の格差にしか言及できておらず、不十分な研究であるが、私はTXの土浦延伸案に反対の立場である。ゆえに、今後、茨城県はTXの土浦延伸案に対して、地域感の経済格差に注目して、慎重に協議するとともに、未だ延伸について言及していないTXと協議すべきである。

謝辞

今回の研究にご協力してくださったTAの出口さん、筑波大学の唐木教授、広兼さんに感謝申し上げます。

参考文献

- [1]茨城県(2018):『茨城県常住人口調査結果報告書』
- [2]茨城県(2023):『令和2年度茨城県市町村民経済計算』
- [3]土地代データ: <https://tochidai.info/>(最終閲覧日 2024年1月31日)
- [4]総務省統計局(2021):『住民基本台帳人口移動報告』
- [5]総務省統計局:『国勢調査』
- [6]茨城県(2023):『茨城県市町村民経済計算』
- [7]厚生労働省(2022):『人口動態調査』

